



すずしろ 22 2023 9 月報

すずしろは大根 それは大地の豊かな恵の象徴 22 世紀につなげる農のあり方を 共に考える会

援農状況

8 月の援農集計

	援農時間 (h)	参加人数 (人)	参加延べ人数 (人)	農家数 (軒)	累計援農時間 (h)	累計参加延べ人数 (人)
2023 年 8 月	2,562	79	678	24	15,837	4,386
2022 年 8 月	2,275	69	642	23	14,788	4,048
増減	+287	+10	+36	+1	+1,049	+338

8 月の援農は、2,562 時間となりました。これまでの月の援農時間の最高となりました。昨年 8 月比では 287 時間の増、年間累計では 1,049 時間の増となっております。暑く、いそがしい 8 月でしたが、7 月に続き援農に参加する方が多くなり、良い結果が出ております。8 月は、早々に桑の葉の収穫作業が終わり、ブルーベリー収穫作業が月末まで続きました。枝豆や生姜など夏野菜の収穫、袋詰め作業の他、暑さにめげず大きく茂った雑草取り作業などに追われました。一方、「種植えした人参が発芽しない」「葉物野菜が立ち枯れする」など、暑さや水不足の影響は、我々だけでなく畑の野菜にも出ておりました。



まだまだ暑さは続いておりますが、夏の疲れは、涼しくなり始めた頃に出ます。しっかり休養、睡眠を取って頂くようお願いいたします。

秋の交通安全運動：「子供と高齢者等歩行者の安全の確保」、「夕暮れ夜間の事故防止及び飲酒運転の根絶」、「自転車ヘルメットの着用と交通ルール遵守の徹底」を重点目標として、9 月 30 日までの期間、秋の交通安全運動が行われております。援農の行き帰りだけでなく、日常でも交通安全を心掛けて行きましょう。(援農サポータ北尾)

理事会報告

9 月度理事会 (9/21 (木) 17:30~20:30 台町市民センターにて。9 名)

- ① NPO フェスティバル出店の詳細について
- ② 来年度農園利用料の徴収について。支払い期限は 12/10 とする。
- ③ コスモスふぁーむ：排水溝を 30 cm 掘り下げた。区画のあいまいな部分があるので、仕切りロープなどで区画を明確にする。
- ④ 新富所農園の小屋を修理することとする。
- ⑤ 会報発行の日程や記載内容を理事会で明確にすることとした。



イベントのお知らせ

- ① 9/30(土)『NPO フェスティバル』に出店し、農家会員さんの農産物の販売と、会の紹介をします。会場は、東京たま未来メッセ (明神町 3 - 19 - 2) です。遊びにお出かけください(10:30~16:30)。
- ② 11/18(土)、19(日)『八王子いちよう祭り わくわく広場コーナー』に出店します。長房市民センター河川敷にて。販売や会の PR のお手伝いを募集します。詳細は追ってお知らせします。



野草あれこれ

クワクサ (桑草)

クワ科クワクサ属

道端、草地にはえる一年草。本州から沖縄、および中国に分布。茎は下部からよく分枝して直立し、高さは 15~80cm、細かな毛が密生している。葉は互生し、長い柄をもち、先が尖った卵形で縁に鋸歯がある。葉質は薄く、両面がややざらつき、長さ 5~10cm。雌雄同株。花期は 9~10 月。雄花と雌花が混ざった、球状の集散花序を葉腋につける。どちらも花弁を持たない小さな花で淡緑色、ときに紫色を帯びる。果実の下半部はふくらんで液質になり、膨圧で種子をはじき飛ばす。名前の由来は、葉がクワに似ることから。



援農体験記

「人がヤル気になる要件」

初沢町 佐藤 仁

「皆さーん給水タイムですよー。お水を撮ってくださいーい！お茶も用意してありまーす」 山あいのブルーベリー畑にやさしい声が響きわたります。8月、ある農家さんに、夏野菜収穫から入りました。先ず、仕事始めに先輩方一人ひとりに紹介され、少しでも早く馴染んで作業に入れるようにとの気遣いが嬉しく思いました。心配りは作業手順の丁寧な説明でも感じられ、考えて仕事するという昔懐かしい感覚を思い出しました。例えば、「キュウリのこの程度の曲がりにはB級品として別の市場に出荷します」など。選別判断ミスを予防する情報の共有は、職場の活性化にかなり有効です。「じゃあ、この程度は？」とか「ここに小さなキズがあるけど…」など、先ほどの名前の紹介から、たちまち「仕事研究仲間」が出来上がりました。



半日の作業を終えて帰りのバスに揺られながら思ったこと。「こんな農家さんがひとつでも増えれば、援農する側も今よりもっとやりがいを感じる機会が増えるのではないか」—こんな思いになったのは、帰りがけにくれた「お土産」効果か？休憩時間のアイス効果か？—いやいや多くは園主から発する「ことば」にあるとみました。

そもそも私たち年寄りには、現役を離れてからというもの、心休まる「居場所」がない。家庭ではせいぜいナマゴミ扱いから粗大ゴミ扱いに格上げ？された程度で、モノ扱いに大きな違いはない。そんなときに他人から思いやりに溢れた（と思われる）優しい言葉をかけられた日には、歳を忘れて木にだって登ってしまいます。農家の人手不足＝年寄りの有効活用のヒントはこんなところにあるのかもしれない。

その一方で、グループで作業をする場合、相手の話を最後まで聴かない人が多いということも気になりました。それも優秀（やり手）な人ほどその傾向が強い。その理由はいろいろあるのですが、優秀（やり手）な人ほど多忙になっていることと無関係ではないと思います。『仕事遂行上、重要なことを、「伝えたい側」が、伝えたいことが正しく伝わるよう工夫・努力する覚悟を持つ』という40年以上前の教を振りかざすつもりはありませんが、お忙しい先輩方には、ぜひ早飲み込みをせずに「傾聴」にお心がけいただきたい。「この人は何を言わんとしているのか？」と。そんなこんなを考えながら、冷房の効いたバスの中で「今日もお役に立てた」という勘違いからくる満足感を土産に、気が付いたら高尾の駅に到着しました。

最後に、自ら援農を行いつつ、メンバーの派遣と事務作業に携わっている事務局(?)の皆さん、本当にお疲れ様です。さらに農家さんの行き帰りにご厚意に甘えてマイカーに相乗りさせていただいた先輩方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



はちっこキッチン(*) 檜原のオープン

8月末、学校給食センター「はちっこキッチン檜原」が竣工し、2学期から市内の中学校への供給が始まりました。4番目の学校給食センター「はちっこキッチン檜原」は、最大5千食の供給ができる市内最大規模の給食センターで、第2中、第4中、第6中、第7中、甲ノ原中、横山中、桐田中、檜原中、由井中、浅川中、綾南中の計11校への給食を供給しております。

すでに稼働をしている3つの学校給食センターの状況、今後の計画されている学校給食センターの予定、そして我々が応援している農家さんの野菜が、どのように使われているか等については、10月報で詳しくご紹介いたします。



はちっこキッチン

*はちっこキッチン：子供たちが名付けた「八王子市学校給食センター」の愛称です。八王子の子供たちのために、おいしい給食を作ってくれる給食センターという思いが込められています。